

研究報告書

はじめに

I もうここまで来ている情報教育

- ①情報モラルの指導
- ②ICT機器の活用
- ③TV会議システムの活用

情報教育研究グループ

- II ①小学校授業における支援方法について
②幼稚園保育における支援方法について
③小学校授業における巧緻運動困難への支援方法について

発達理解研究グループ

- III 「担任が行う、英語教材を活用した小学校英語授業の研究」
—授業研究・環境整備—

小学校英語研究グループ

- IV 学校組織マネジメントを活かした学校づくり
～組織的な学校づくりに向けた校内体制の充実～

学校組織マネジメント研究グループ

- V 「校内授業研究の活性化により授業力向上を図る！」
—学び・つながり・笑顔が生まれる授業研究とは…—

授業活性化研究グループ

- VI 不登校児童・生徒支援事業について

—表紙題字—

神山 成 氏（元 吹田市立山田第三小学校 校長）

はじめに

平成21年度（2009年度）の調査・研究を終え、紀要104号を「研究報告書」として刊行するにあたり、関わっていただいた皆さまにお礼申し上げます。

吹田市立教育センターは、本市の学校教育の向上を図ることを目的として昭和62年に設置され、教職員研修事業、教育相談事業、学校教育情報通信ネットワーク構築事業と併せて、調査・研究事業に取り組んでいます

今年度は、経験したことのない新型インフルエンザや前年からの不況による生活基盤である家庭の状況の悪化等、子どもを取り巻く環境の厳しさが続く中、幼稚園では新教育課程が実施され、小・中学校でも新しい学習指導要領の内容の一部が先行実施されました。今回の改訂でも「生きる力」の育成という理念は継承されますが、「確かな学力」の確立のための基礎的基本的な知識や技能を活用する力や学習に対する意欲や態度を育成という課題や、深刻かつ多様化した問題行動やいじめ・不登校・虐待等の状況等、私たちの目の前には様々な教育課題が横たわっています。教育の力が試され教育の重要性が再認識される今、『教育は人なり』といわれるように「地域に根ざした質の高い公教育の創造」をめざす学校づくりのために、研修や研鑽に努め、実践力や組織力を高め、学校力・教職員力を向上させることは益々重要となってきます。また、新政権発足による前政権下での補正予算の見直しや事業仕分け等を含めた次年度の予算編成の中で、教育課題の解決に向けた具体的な取組を進めていくことが求められています。

今年度、教育センターでは、「情報教育」「発達理解」「小学校英語」「学校組織マネジメント」「授業活性化」の5つの研究グループにおいて、スーパーバイザーの先生のご助言を得ながら、研究員の方々に熱心に研究に取り組んでいただき、それぞれの成果をまとめることができました。次年度は、小・中学校の新学習指導要領移行措置2年目になります。知・徳・体のバランスのとれた「総合的人間力」の育成に向けて、確かな学力の定着やていねいな子ども理解等、教職員力・学校力の向上や各学校・園の取組の充実にご活用いただけましたら幸いです。教育センターにおいても、活力と笑顔に満ちた学校・園づくりが進められるよう、課題に的確に応えられるきめ細かな支援体制を整え、実効性のある情報発信をし、関係機関との連携を図りながら、学校教育の充実と振興に努めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、スーパーバイザーの先生方をはじめ、本年度の調査・研究に多大のご理解・ご協力を頂きました学校・園、関係者の皆さま、また研究員として委嘱させていただきました教職員の皆さまに篤くお礼申し上げます。

平成22年（2010年）3月

吹田市立教育センター
所長 廣嶋 豊子

紀要104号

平成21年度 研究報告書
(2009年度)

印刷発行 平成22年 3月
(2010年)

発行人 所長 廣嶋 豊子

発行所 吹田市立教育センター

吹田市出口町2-1

電話 (06)6388-1455

FAX (06)6337-5412

E-Mail:s-educ@suita.ed.jp

印刷所 西村印刷株式会社

電話 (06)6925-6555